

2023年 第20回 星槎道都大学美術学部高校生住宅設計コンクールで 本校建築科3年生の作品が佳作を受賞しました。



south elevation

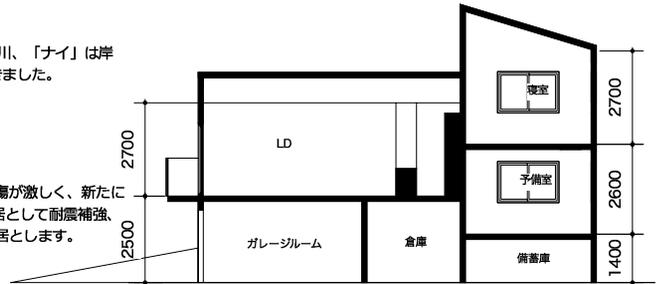
east elevation

ハザード・デザイン

過去の災害に学び伝える、この地のかたち

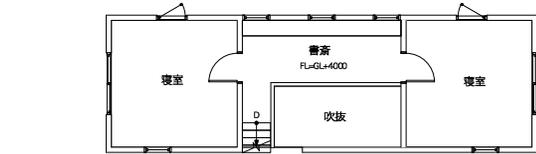
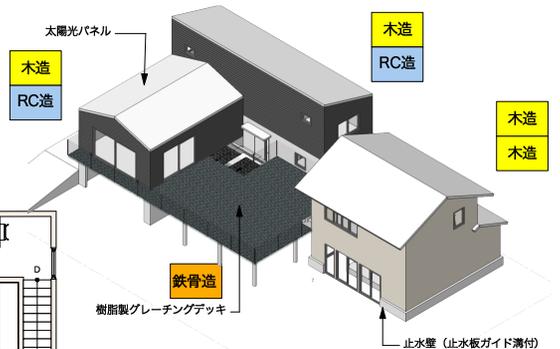
アイヌ語の「川」には「ベツ」と「ナイ」の2種類あり、「ベツ」は水かさが増すとすぐに氾濫してしまう危険な川、「ナイ」は岸がしっかりしていて、洪水に強い川を現わしています。文字を持たないアイヌ民族は言葉がサインとして用いてきました。近年、その地域の建物の特徴で気候風土を推測することは難しくなっている。災害の危険性をデザインすること。『ハザードデザイン』※造語

この敷地には隣接した小さな川があります。天候の良い日には美しく穏やかな川辺の風景を望む事が出来ます。しかし過去に数回氾濫し、その度に被害をもたらしてきました。この土地には曾祖父が移り住み、祖父が建てた大きな家も既に築60年、水害の度に修復してきました。母屋は損傷が激しく、新たに兄弟が安心して暮らせる高床式（ピロティ形式）の家として生まれ変わり、少し築年数の少ない離れは両親の住居として耐震補強、洪水対策を施し、1階は母の趣味であるフェルト手芸のアトリエ、2階は子供達と付かず離れずの距離を保った住居とします。いざと言う時は、デッキを通して高床式の子供達の家屋へ退避する事が出来ます。

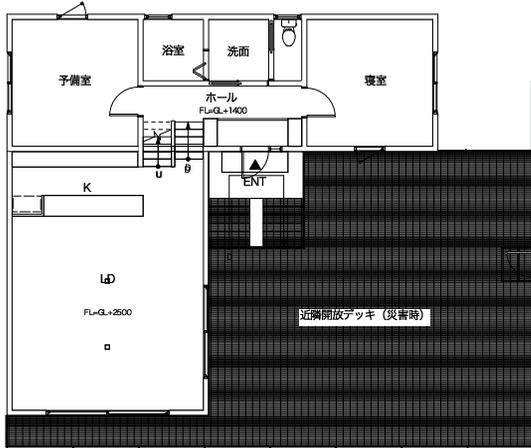


section

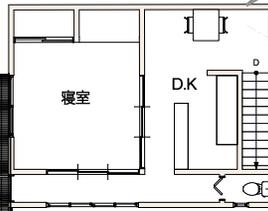
兄弟の各寝室はリビングを介して階の差を感じにくいスキップフロアによって結ばれています。また、予備室はゲストルームとして、両親の別室として利用できます。



second floor

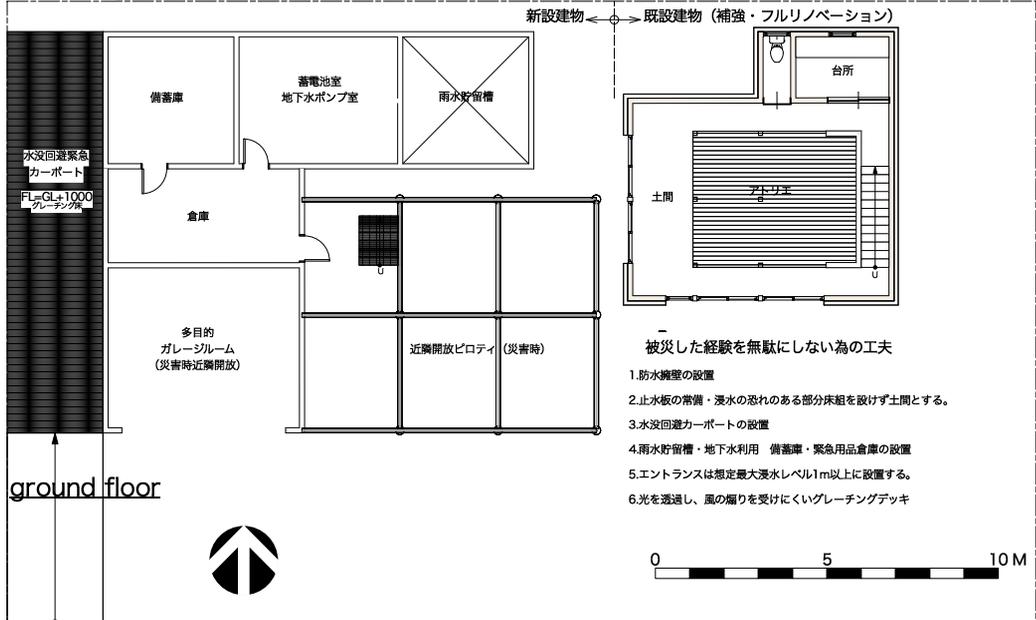


first floor



「不安を抱えることなく、受け継いだ土地で安心して趣味を楽しめる家で仲良く暮らす。」

長男は木造のサステナブルな点や耐震に関しても現在の技術で十分に補完され安心して暮らしたいと主張した。何を置いても長年住んだ家を少しでも残したいという思い入れがある様だ。次男は堅実派であらゆる点で強度的に安心できるRC造を強く希望した。三男はダンスの練習や軽スポーツの練習に使える大きな空間が取れ軽やかなデザインが出来る柔軟性の持つ鉄骨造。全く意見の異なる兄弟だがどこかで互いを理解し受け入れている。



ground floor

クライアントプロフィール
 父：60代会社役員 趣味-写真・ドライブ
 母：60代無職 趣味-フェルト手芸
 長男：30代団体職員 (JA) 趣味-釣り・バイク
 次男：20代地方公務員 趣味-オフロードバイク・ギター
 三男：20代学生 趣味-ダンス・ゲーム

- 被災した経験を無駄にしない為の工夫
1. 防水網壁の設置
 2. 止水板の常備・浸水の恐れのある部分床組を設けず土間とする。
 3. 水波回避カーポートの設置
 4. 雨水貯留槽・地下水利用 備蓄庫・緊急用品倉庫の設置
 5. エントランスは想定最大浸水レベル1m以上に設置する。
 6. 光を透過し、風の届りを受けにくいグレーチングデッキ



道路 (幅員10m)

第20回星槎道都大学美術学部高校生住宅設計コンクール